「高等学校における発達障害の理解と支援」

～生徒の数だけ　特別支援がある～

１　思春期の発達障害の特性と対応

２　就労・進路指導

高等学校における特別支援教育の推移

平成20年度：特別支援教育コーディネーターの指名
平成21年度：特別支援教育に関する教育専門監の配置
平成23年度：「県立高校学校生活サポート調査事業」開始
（県内3校3名のサポーター配置）
平成25年度：「高等学校特別支援隊」開始（県内3地区）
平成26年度：「高校生学校生活サポート事業」
（県内6校6名のサポーター配置）
平成28年度：新たに高等学校に2名の教育専門監（計3名）
平成30年4月：秋田明徳館高等学校で通級指導がスタート

特別支援教育や発達障害に関する理解や
校内支援体制の整備が推進されてきた

高等学校特別支援隊

高等学校特別支援隊

「高等学校特別支援隊」は、特別支援学校や障害者就労支援機関、相談機関がチームを組み、特別な支援を必要とする生徒の教育的ニーズや学校のニーズに応えます。

高等学校特別支援隊の役割は？

① 校内支援体制の充実に向けた支援（校内研修会の企画　等）
② 生徒の学習や生活に関する支援（個に応じた支援の相談　等）
③ 生徒の就労に対する支援（就業体験受入企業の情報提供　等）

☆次のような支援ができます☆

Q：障害等がある生徒の就職について教えてほしい。
A：障害者雇用事業所の情報提供や就労支援機関と協働して支援をします。

Q：障害等の状態を知って、指導・支援に役立てたいが…
A：本人、保護者の了承の下、検査を含む実態把握を実施して、支援内容・方法を一緒に考えます。

Q：個別の指導計画の作成や活用は？
A：様式を提示し、作成のポイントや評価の仕方を具体的にアドバイスします。

Q：発達障害等についての校内研修会を開催したい。
A：希望する内容に応じて、高等学校特別支援隊から適切な人材を派遣します。

高等学校特別支援隊のメンバーは？

高等学校特別支援隊の派遣依頼は？

① 県内3地区の特別支援学校に設置している「高等学校特別支援隊事務局」に電話で相談し、依頼をします。
② 事務局が依頼内容を確認し、訪問日程等について高等学校特別支援隊メンバーと調整します。
③ 訪問日程が決定後、高等学校特別支援隊が学校へ訪問し、支援します。

☆派遣の流れは、次のとおりです。まずは、お電話を一本！

高等学校 → ☎①電話相談※ → 高等学校特別支援隊事務局 → 派遣要請 → 高等学校特別支援隊
☎②依頼内容、訪問日程の確認
③具体的支援・助言等の実施

※電話相談の後、文書による派遣依頼が必要です。
※派遣依頼の様式は、高等学校特別支援隊事務局ホームページ参照

高等学校特別支援隊事務局の連絡先は？

各地区	学校名	電話番号／ホームページアドレス	所在地
県北	県立比内支援学校 たかのす分校	0186-66-2128 http://www.hinai-s-takanosu.akita-pref.ed.jp/	北秋田市
県央	県立支援学校 天王みどり学園	018-870-4611 http://www.midori-s.akita-pref.ed.jp/	潟上市
県南	県立横手支援学校	0182-33-4167（代表） http://www.yokote-s.akita-pref.ed.jp/	横手市

【お問い合わせ先】
秋田県教育庁 特別支援教育課　018-860-5135
秋田県教育庁 高校教育課　018-860-5165

- 関係機関がチームを組み、特別な支援を必要とする生徒の教育的ニーズや学校のニーズに応え、高校生の良好な学校生活を支援する

- 特別支援教育アドバイザー、発障害者支援センター職員、ハローワーク職員、障害者就業・生活支援センター職員、秋田障害者職業センター、特別支援学校教員、教育専門監（特別支援教育）

- 事務局　3地区の特別支援学校
（比内・栗田・横手）

高等学校における特別支援教育の課題

・特別支援教育の理念と位置付けを明確にする
・１年生を全校で支援する体制と共通理解を図る体制を整備する
（１年生は最初で最大のチャンス・ 二次障害の予防と組織的な対応）
・校内の役割分担を明確にする（管理職・コーディネーター・・生徒指導・養護教諭）
・授業とリンクした「個別の指導計画」等を作成する
・みんなが分かる授業づくりを進める（合理的配慮の蓄積）
・評価の仕方を工夫する（出席点、平常点、小テスト、レポート、再テストや補習）
・うまくいった支援を全校で共有する（職員会議　事例検討会　通信等）
・保護者と思いの形を重ねる（ズレがあるとゴールは見えない）
・出身中学校や関係機関と連携を図る（地生研等の活用）
・就業体験を重視した進路指導を目指す
（自己理解に基づく将来設計や望ましい勤労観・職業観の育成）

高校は最後の砦

発達障害

ASD（自閉症スペクトラム障害）

自閉症　　高機能自閉症

社会性・対人関係
コミュニケーション
想像力（こだわり）
感覚過敏　運動異常

ADHD（注意欠如多動性障害）

不注意（集中できない）
多動性（落ち着きがない）
衝動性（抑制＜興奮）

アスペルガー症候群

知的な遅れはないが、聞く・話す・読む・
書く・計算・推論するが
極端に苦手

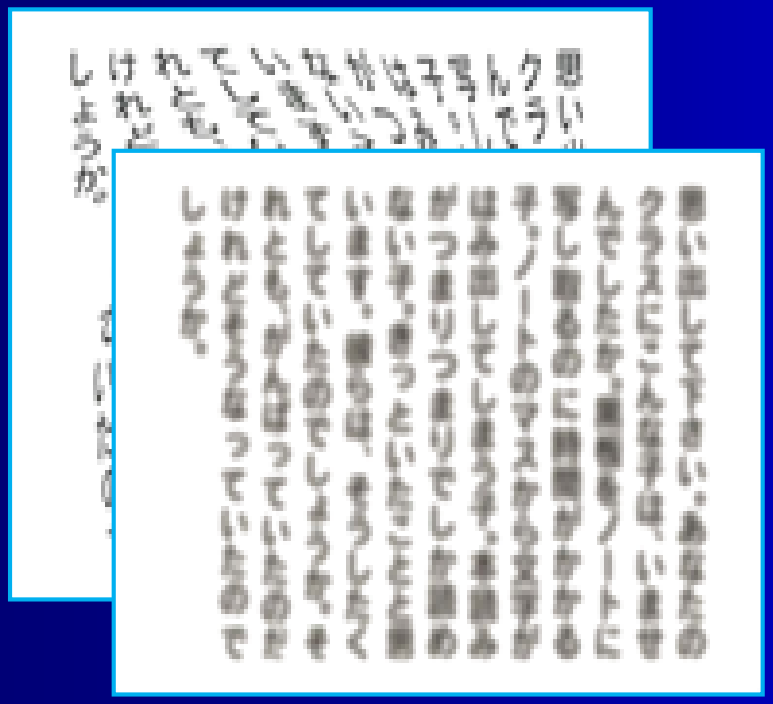
LD（学習障害）

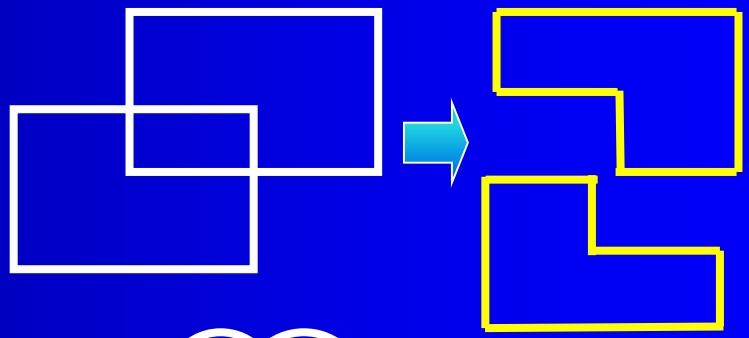
ＬＤ（学習障害）

わｂⅣ
ねｄⅥ

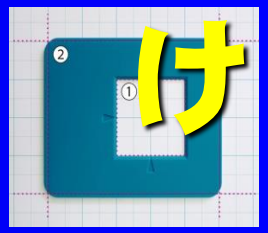
ま

曲 曲





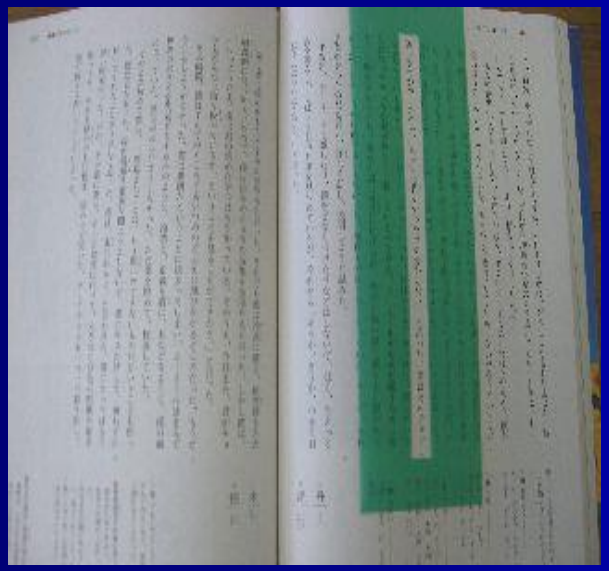
620
＋７３



図と地　形の弁別　目と手の協応　空間認知　視覚的記憶の困難

やる気がない　努力不足 ➡ 意欲低下　自信喪失　不登校

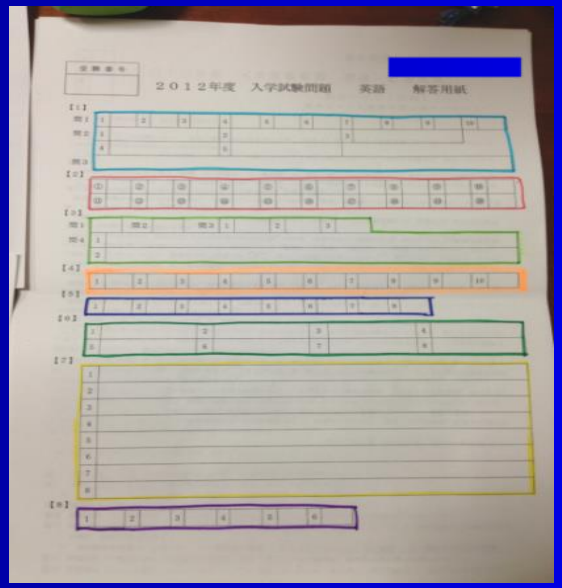
ＬＤへの支援（読み・書き）



1．次の問いの［　　］に当てはまることばを答えなさい。

（1）光は、空気や水、ガラスなどの中を［①　　］に進む。これを光の［②　　］と言う。

（2）太陽や電球のように、自分から光を出しているものを［③　　］という。



ＬＤ（学習障害）

高校入試における発達障害のある生徒への配慮（全国）

・別室受検
・試験時間の延長（大学入試は１．３倍まで認められている）
・記述式ではなく、選択式設問実施
・集団面接を個人面接で実施
・問題用紙の拡大や問題文の読み上げ
・監督者による口述筆記
・試験会場の下見
・介助者の同席、保護者の別室待機
・学力検査問題の漢字のルビ振り
・集団面接で同じ中学校受験生と同じグループで受検させた
・面接の際、質問を分かりやすく伝え、回答を急かさない
・面接の順番を早める

周囲の理解と公平性が課題

ＡＤＨＤ（注意欠如多動性障害）

セルフコントロール・実行機能・ワーキングメモリが弱い

１　不注意（ADD）　女子に多い　成人後も残る

集中できない　整理や時間管理が苦手　　忘れ物が多い
物をなくす　　計画的にやれない　ケアレスミスが多い

２　多動性　加齢とともに減る

落ち着きがない（貧乏ゆすり）　目的のない動きが多い
過度にしゃべる（口の多動）　活動に大人しく参加できない

３　衝動性　依存症になりやすい　成人後も残る

待つことが苦手　目新しいことにすぐ飛びつく（衝動買い）
人の話に口をはさむ　暴言を吐く　他人の行動に割り込む

不注意優位　多動性・衝動性優位　混合型

男女比4：1　　併存障害：LD　ASD　反抗挑戦性障害

ＡＤＨＤの特性

不注意（多注意）

お湯を入れたことを忘れて別のことをする　一つのことに集中できない

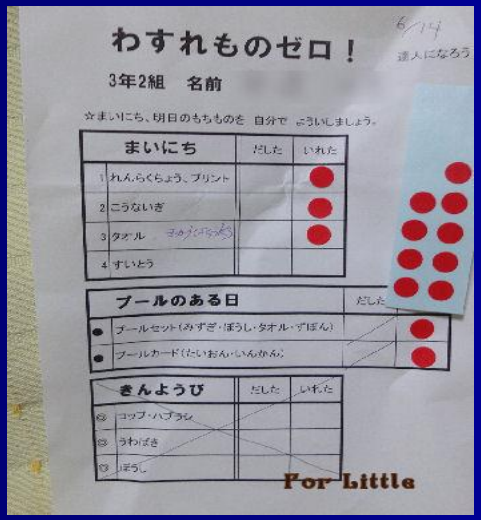
多動性

ふたを開けたり閉めたりする
じっとしていられない

衝動性

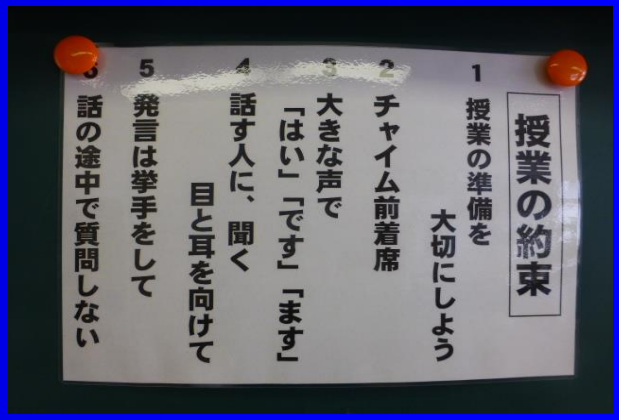
3分待てずに食べてしまう
他のものを食べてしまう
考える前に行動してしまう

ＡＤＨＤへの支援（不注意）



ＡＤＨＤへの支援（多動・衝動性）

１　枠組みの設定　事後より事前指導



- 簡単な約束を設定して成功経験を増やす
- 希望つき目標設定と見える評価をする
- 我慢できなくなったときのサインを決める

２　環境を整える　刺激を少なくする

- 座席の位置を工夫する　・掲示物を精選する
- 課題の時間や量を減らす　・ペア学習を増やす
- 身体の緊張をほぐす時間を設ける

３　ほめる回数を増やす　自尊感情を高める

- 叱る機会を減らす（ターゲット行動を絞る　動ける役割を設ける）
- 量より質、結果よりも経過を重視する　・アイディアを取り入れる

強く叱っても逆効果　いかに生徒の心をくすぐるか

大人のためのＡＤＨＤセルフチェックシート

□予定が差し迫っているのに、違うことに気を取られて
　必要な作業ができない
□食事の献立が思い出せない
□会議中にボーッとしてしまう
□スケジュールを守れずに遅刻することがある
□教えられたことを忘れてしまう
□仕事で同じミスを繰り返す
□作業中にムダに足をぶらぶらさせてしまう
□仕事中、机におらず会社内をうろつく
□一人でしゃべっていることがある
□しゃべるのが苦手で、どう話せばよいのか分からない
□協調性がなく一緒に仕事しにくいと言われたことがある
□部屋の片付けが苦手である

ＡＳＤ（自閉症スペクトラム障害）

社会性の障害

想像力の障害（こだわり）

コミュニケーションの障害

運動のぎこちなさ

常同行動

認知の歪み

感覚異常

視覚優位

てんかん

ＡＳＤの特性（社会性）

１　顔の表情が読めない
- 相手の気持ちが読み取れず、思ったことを口にする
  「あなたは太ってるね」→トラブル発生
- 相手との距離感に無頓着で近すぎる距離で話したり顔をそむけて話したりする

２　その場の状況が読み取れない
- 指示されないと暗黙のルールが分からない
  内緒だよ→すぐ話してしまう　「また来てね」→毎日遊びに行く
  まだ書いている人がいるのに、黒板を消してしまう

３　折り合いを付けるのが難しい（白黒思考　0か100）
- 思い込みが強く、二択で物事を考える　all-or-nothing
  相手と意見が違うと「あの人は分かってくれない」
  100点が取れないとテスト用紙を破ってしまう

ＡＳＤの特性（コミュニケーション）

１　曖昧な表現や代名詞の理解が困難
「もうちょっと」「はやく」「きちんと」「それ･これ･あれ」

２　字義通りに解釈する（冗談、慣用句、比喩、皮肉が苦手）
「バカだな」→本気で怒る　「骨が折れる仕事」→？
「つまらないものですが･･･」→やらなければいいのに
「勉強なんかしなくていい」→喜ぶ　「遅いな」→「はい、12分の遅刻です」

３　文脈の理解が困難（省略化した言葉が理解できない）
「お母さんいる」「ご飯にする」「お風呂見てきて」「名前を書いて」

４　状況に応じて使い分けが困難、一方的に話す
声の大きさの調整が下手　不自然な表情や姿勢　雑談に入れない
誰にでも敬語を使う　アニメのヒーローやアナウンサーの口調

ＡＳＤの特性（想像力）

～見えないものを記憶・理解するのが苦手～

１　予定外・未知のことを想像する力が乏しい

初めての場所や活動が苦手、急な予定変更に混乱・抵抗する

２　興味・関心の偏りが大きい サヴァン症候群

電車・漢字、歴史・コンピューター等へのこだわり

３　新しいことを嫌がる（ルーティンを好む）

毎日同じ時刻に、同じ場所で、同じことをしたがる

４　妥協することが苦手（完璧主義　ルールの遵守）

小さなことで友達と衝突する　問題の解決策を見付けにくい

５　自由が不自由になる（曖昧さが理解できない）

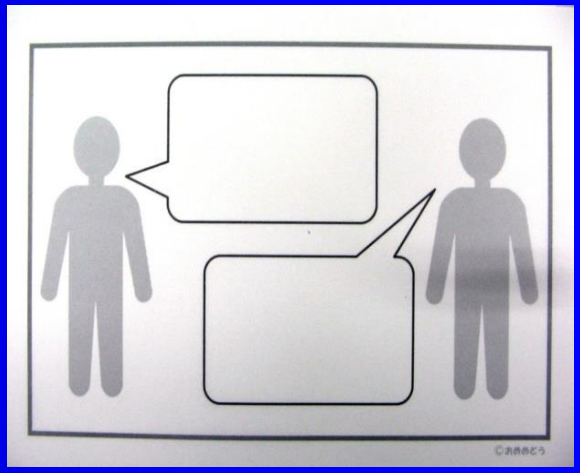
自由に過ごす時間・空間が不安を呼び起こす（休み時間が苦手）

ＡＳＤへの支援のポイント

１　明確化（根拠や意味を理解できるようにする）

・暗黙の了解、社会的常識やルール、期待を誤解のない表現で指導する

×　「靴下汚れてるんじゃない」



２　視覚化（見えないものを見えるように）

・相手の気持ちや場の状況をイラスト等で提示する

・ト書きを利用する

３　構造化（時間・空間・人間を分かりやすく）

・一日、一時間の流れを示す

・活動内容等を手順化する

ＡＳＤへの支援のポイント

４　具体的（分かりやすい指示を一度に一つ）

・絵になる言葉や数字を使う　五感に訴える
「早くやろう」→「１分以内にやろう」
「きれいに片付けよう→「絵の具とバケツを片付けよう」

５　個別的（木を見て森を見ず）

・一斉指示は入りにくいので、個別にも声をかける
・「今、ここを見て」と注目させてから話す

６　肯定的（大声や怒鳴った口調は興奮につながる）

・大声で「走るな！」×

→ **C**alm　**C**lose　**Q**uiet「歩こう」

「歩けたね」 最後はほめて終わる

事例

高校1年生　男子生徒　　診断名：アスペルガー症候群

・中学1年生の時、注意されることが増え、不登校となる（100日）
・医療機関を受診した結果、アスペルガー症候群と診断
　一斉指導の学習場面には参加できなかった

自転車置き場が分からない　予定変更に対応できない
人の顔と名前が一致しない　休み時間の過ごし方が分からない

・中学校と顔の見える引き継ぎ
・校内支援体制の整備（入学前に校内研修会を開催）
・保護者との連携（ルールを設けてメールでのやりとり）
・本人の目標設定（大学進学と学級での居場所）

事例（支援）

○予定変更について

・変更が分かった時点で、本人に話したり、母親にメールで伝えたりした

・避難訓練、交流活動等、初めて行う活動やいつもと違う活動には、予告・予習を行い、不安な気持ちを軽減した

○休み時間の過ごし方について

察することが困難、対人関係がうまく築けない特性があるため自由な時間が不自由な時間になるので、具体的に過ごし方を提示したり、選択肢を与えたりした（好きな読書をはじめ、本人が楽しく過ごせる趣味をもたせる）

学級で認められたことが自信に

役割を通して集団の中で心の居場所をつくる

場面緘黙（選択制緘黙）

家では普通におしゃべりするのに
社会的場面で話すことができない状態

発症時期	多くは2～5歳、また小学校低学年
出現率	0．2～0．5%、女子に多い
特　徴	話しているところを見られたり聞かれたりすることに恐怖を感じる
原　因	複合的な要因がかかわる

わざと「話さない」のではなく
不安や緊張のために「話せない」ということ

場面緘黙（選択制緘黙）への対応

1　不安の軽減

目立たない座席位置を検討

・教室の後ろ半分、端の列に近い、他生徒から見られにくい、その子が信頼できる友だちの隣

活動や場所からの回避も検討

・全員発表の授業や学校行事などのとき、保健室での学習や別室での学習を検討

2　教師とのコミュニケーション

メモ書きや連絡ノートで確認

・提出課題や連絡事項など

サインの検討

・手を挙げたらYES、首を振ったらNo

・人差し指と親指でOKマーク

場面緘黙（選択制緘黙）への対応

３　学習面への配慮

話すことに代わる成績評価や参加方法
・筆記形式、自宅での録音、別室での活動

答えるのを待つよりは、次に移る
例えば、何秒で移るか事前に話しておく
学校でできなかったものは持ち帰りを勧める

４　友達関係をサポート

いじめが起こらないよう十分注意する
気の合いそうな生徒と同じグループになるよう配慮する

不安の軽減→自己評価のUP→社会的交流
（目立たない支援＆発語ではない）

半端ない情報

中学校で不適応だった生徒が
なぜ高等学校で適応するのか

- 中学校から家庭問題、不登校、発達障害に関する情報提供がされるようになったり、保護者が相談したりするケースが増えたため、支援体制づくりが進めやすくなった
- 合格後の「地生研」で、入学後に必要な情報が得られるようになった
- 周囲の生徒が多様性を認め合い、気になる生徒とうまく付き合うことができている
- 専門高校では、対人スキルが苦手でも、好きな実習を通して自己肯定感が高まり、就労を目標に頑張れる
- 高校入学を機に、本人が変わりたい気持ちが強く、自己理解が促進される（例：あえて知らない人が多い遠くの高校を選択
  自分の強みを生かした部活動で活躍）

就労・進路指導

高校卒業後

就　職

- 一般就職
- 障害者雇用による就職
- 福祉的就労

手帳取得の壁

進　学

- 大学（短大含む）
- 専門学校
- 秋田県立技術専門校

就労・進路指導

～発達障害者等が抱える就労的課題～

（秋田障害者職業センターより）

・対人・コミュニケーションスキルが弱い
・暗黙のルールが理解できない（その服似合わないね）
・就職活動の手順が分からない
・注意されると、相手が自分を敵視しているように感じる
・上司や同僚に対する接し方がうまくできない
・指示が分からないときに、タイミングよく質問ができない
・電話の応対がうまくできない（〇〇さんいますか？→います）
・突然、興奮したり、怒り出したりする
・複数のことを担当すると、どれを優先するのか、分からなくなる
・経験したことがないことを初めてやるときは、とても不安になる
・時間や場所などの予定が変更になると、不安になる
・自分なりの勤労観や職業観がもてない
・周囲の人の理解が得られにくい
・自己理解が弱く、手帳取得が難しい

就労・進路指導

～高等学校における発達障害支援モデル事業より～

・進路指導に結びつけたSSTは、従来からの進路指導の要素を生かした実践を行い、成果を挙げた
（静岡県立浜松大平台高等学校）

・1年次、あるいは早期からのキャリア教育を充実させることにより、職業生活の準備を行うことが重要　（大阪府立佐野工科高等学校、熊本県立芦北高等学校）

・就労体験実習を実施することにより、職業適性の発見や自己理解の促進、実習授業等の成果測定や指導法の検証等、次のステップに向けた課題を多数見出すことができた
（大阪府立佐野工科高等学校）

・社会に出た際に不可欠となる「コミュニケーション能力」を高める取組に加えて、就労体験を行ったことは、生徒の進路意識の高揚と進路先の決定につながった
（熊本県立芦北高等学校）

・生徒の気持ちを最優先にして取り組んだことで、「良いところを確認でき、自信がもてるようになった」「不得手なところを知り、生活の中で注意することが確認できた」
（京都府立朱雀高等学校）

就労・進路指導

（株）高島屋横浜店　大橋恵子さん 「働く広場」2015．4月号

会社では　どんな人材を求めていますか？

１　会社にとって利益につながること
２　良好な人間関係を築けること
３　生きる力が備わっていること

学校に望むことは？

１　自分のことを知っている
２　自己に肯定感をもてている
３　生きる目的を見出している

やり方よりも心の在り方（心構え）が大切！

まとめにかえて

就労･進路指導のキーワード

自分で選ぶ　自己選択・自己決定

自分で選んだという意識があれば、
ある程度のがんばりがきく

目的がもてる　自己実現

目的があると努力ができる　粘りがきく

苦手を知る、カバーできる　自己理解・自己肯定感

代替え、予防、ストレス解消（趣味）
メモ、付箋、パソコン、癒しグッズ　など